



同窓会活動に 更なるご協力を



教育学部同窓会 会長
白杵 勇人

日ごろから教育学部同窓会の活動推進に格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

令和七年は新潟大学全学同窓会設立二十周年の記念すべき年であります。昨年度の新潟大学創立七十五周年に続いて今年の十月十八日(土)に大学との共催で「交流会・講演会」を開催いたします。当日は教育学部同窓会が運営を担当し、楽しく有意義な会になるよう準備をしています。同窓生の皆様も奮って参加をお願いいたします。

さて、令和九年度は教育学部同窓会創立七十五周年となります。六月の評議会でも、記念事業の骨子について紹介し、承認を得ることができました。令和九年度に向けて三年計画の初年度、特設委員会を組織し、会員の皆様から大勢参加していただける有意義な会にしようと計画しているところです。

そこで、まずは評議会に支部長、学科代表者から大勢参加していただき、本年度の取組、周年行事の取組を周知していただくために、今年初めてオンラインのズームで評議会を実施しました。全員参加とまではいきませんでしたが、例年の二倍以上の参加で評議会、そして、その後の支部長、学科代表者を充実した内容で話し合うことができました。九

月二十日(土)の「同窓生の集い」では、新潟大学教育学部の有川宏幸教授から特別支援教育についてご講演していただく予定です。是非とも大勢の皆様からの参加をお願いいたします。

ところで、教育学部設立以前の歴史を調べたところ、「官立新潟師範学校」の設立が明治七年(一八七四年)であることが分かりました。つまり今年が師範学校設立百五十年目であります。

その後、「新潟第二師範学校」が明治三十二年(一八九九年)、「新潟県女子師範学校」が明治三十三年(一九〇〇年)、「新潟第一、第二師範学校」が昭和十八年(一九四三年)に設立され、戦後「新生新潟大学教育学部」が昭和二十四年(一九四九年)に設立された訳です。ご指導いただいた諸先生方、私たちの先輩である同窓生の皆様の並々ならぬご苦勞とご努力のおかげで今があると思ひ、敬意と感謝を申し上げます。

「継続は力なり」と申します。令和九年度の「教育学部同窓会創立七十五周年」を契機として、会員相互の親睦と資質向上、絆強化を図り、母校の発展に寄与する魅力ある同窓会活動を肅粛と進めて参ります。会員の皆様の更なるご協力を心よりお願いいたします。

花鳥風月

「記録より記憶に残る」といわれた長嶋茂雄氏が八十九年の生涯に幕を閉じた。大舞台での勝負強いバッティングと華麗な守備は、多くのファンを魅了した。長嶋氏は名プレイヤーだけでなく、指導者としても一流であった。特に松井秀喜を試合後に自宅に呼び、地下室で素振りや毎日続け、四番バッターそして、一流選手に育てあげた話は有名である。

数ある選手のなかで、なぜ、長嶋氏が人々を魅了し続けるのか。それはプロ野球に対する「愛」と「情熱」にほかならない。

教職三十四年目を迎えたわたしは自分に問う。「教育への愛と情熱をもち続けているか」と。もう一人のわたしが答える。「もちろんです」。

子どもたちの笑顔があるかぎり、この気持ちは変わることはないだろう。子どもが成長するように自分も学び続ける意欲、よりよくなりたいたいという向上心を、力ある限りもち続けていきたい。「笑顔あふれる学校」を合言葉に今日もまた玄関で子どもたちを迎えている。

(広報部 小林 肇)

情報
交換

情報
発信

新潟大学
教育学部同窓会
ホームページ



評議会報告

六月十四日(土)、新潟教育会館を会場に、教職大学院から大庭昌昭教育実践学研究所長様、吉田隆特任教授様をご来賓にお招きし、同窓会の評議会が開催されました。本年度の評議会は、より多くの方が参加しやすいように、現地開催に加えてオンラインによる開催を初めて導入しました。この試みもあってか、現地参加とオンライン参加を合わせて例年以上の支部長や学科代表の参加が見られました。

冒頭、白杵勇人会長から会員へ向けて、同窓会活動の推進にご理解とご協力をいただいていることについて感謝の言葉がありました。そして、今年度は、昨年度の新潟大学創立七十五周年に続き、全学同窓会設立二十周年の記念すべき年にあたることから、全学同窓会の周年行事への運営を行うこと、さらに、

令和九年度の教育学部同窓会創立七十五周年記念式典の開催に向けて特設委員会を設けて準備を行い、支部長、学科代表者からも積極的に参加していただける有



白杵会長あいさつ

意義な周年行事になればとお話がありました。

大庭昌昭研究科長様からは、今年度の教育学部の現状についてお話を賜りました。教員が不足するという困難な学校現場の状況の中で、この四月から教育学部を卒業した学生の教職への就職率が、前年度六十六%から七十七%まで十一%上がったというよいお知らせをいただきました。教育学部全体として一人でも多くの学生を学校現場に送り出したいという思いがこの数字に表れてきています。



大庭研究科長ご祝辞

教職大学院としては、定員二十名のところ、本年度二十一名と定員を満たすことができ、教育現場の学校課題を他の先生と協働しながら解決していくリーダー養成を目指しています。ストレートマスターは、実習時間を十分に確保し、その中で見付けた課題を多くの人とかかわりながら実践をベースにした研究にまとめるなど、日々奮闘されているそうです。最後に、同窓会からの様々な支援に対しての感謝のお言葉をいただきました。

その後、教職大学院二年次五名の院生へ

奨学金の授与式が行われました。一年次の研究の成果が認められたものです。五名の先生方から、一年次研究内容の概要が報告され、今後の研究に向けて力強い決意の言葉をいただきました。五名の院生の内容は、今年度の教育新報の中でも紹介させていただきます。



奨学金の授与式

評議会では、令和六年度の会務報告、決算報告があり、令和七年度の本部役員が承認されました。続いて、令和七年度の活動の重点と各専門部の活動報告・活動計画、予算案の提案があり、いずれも全会一致で承認されました。

令和七年度の活動の重点(一部抜粋)

一 「同窓会の集い」の充実

- ・時代の要請にマッチした講演会の講師の選定、内容の充実を図る。

- ・参加の呼びかけを強化し、懇親会で支部、学科組織の懇親を一層深め、絆強化のよい機会とする。

- ・令和七年度全学同窓会設立二十周年事

業の運営、令和九年度教育学部同窓会創立七十五周年を迎えるにあたっての準備を進める。

二 広報活動の充実

- ・より親しまれ、読み応えのある「教育新報」を目指し、内容の充実を図る。

- ・会員相互の情報提供及び情報交換の場として、ホームページの一層の活用・充実を図る。

三 組織の充実と強化

- ・アフターコロナの中、各支部活動や学科の集まり、同期の会など、縦と横のつながりを支援する。

四 大学との連携

- ・教員養成改革の動向に合わせて、母校の発展のための助言や支援方法を工夫する。

- ・教育実践学研究科への奨学事業の継続と同科の発展のための支援を推進する。

五 全学同窓会との連携

- ・全学同窓会設立二十周年記念事業の計画・準備を進める。
- ・全学同窓会賛助会員や新潟大学カードの周知を図る。

(広報部長 栗田 貫)

「支部長会」「学科代表会」の報告

令和七年六月十四日（土）、新潟教育会館を会場に、「支部長会」「学科代表会」を合同で開催しました。

今回は、開催地である新潟市から離れた地域の方が参加しやすいように、オンラインでも参加できるようにしました。会場にお越しいただいた方も多く、活発な意見交換が行われました。

それぞれの立場からの意見を共有する中で、今後の同窓会活動の在り方や令和九年度の「教育学部同窓会創立七十五周年記念式典・記念祝賀会」を盛会にするための方向性が見えてきました。

会議の中で、学科代表者から、次のような報告や意見がありました。

- ・年に一回「学科の集い」を行っているが、ある年度以降の名簿が更新されていないため、集いに参加する顔ぶれが変わらない。「創立七十五周年」を機に、大学との連携を図りながら、更新作業を進めていきたい。

- ・研究室が統合されて以来、以前のような活動を行うことが難しくなった。様々な立場の方たちとの合意形成を図りながら、新たな形での運営の仕方を考えていきたい。

- ・コロナ禍前は「集い」を行っていたが、近年は行っていない。その間に卒業生の把握ができなくなり、大学の先生も退官された。大学とのつながりを維持するために、窓口となる先生を決めていただきたい。

- ・自分たちの学科は、既に教育学部に存在していないため、現役の学生を直接支援することができない。学科の存在意義が問われる中で、新たな活動を計画することは難しい。

また、支部長からは、次のような報告や

意見がありました。

- ・支部としてどのような活動を行えばよいものか分からず困っている。名簿も半数の学校からは提出されず、会費の納入率も上がらない状況である。中学校では小学校に比べて、同窓会活動への協力を得ることが難しい。

- ・支部は広域であるため、参集して顔の見える活動を行うことが難しい。同窓生がどこの学校に勤務しているのか把握することが難しく、口コミを頼りに少しずつネットワークを広げているところである。せめて支部長が誰であるかを知ってほしいと考え、支部長になったことを伝える文書を作成し各校に配付した。

意見交換を通して、同窓会活動を進めていく上での課題が改めて浮き彫りになるとともに、参加してくださったみなさん一人一人が、同窓会活動を推進する立場として、「同窓会創立七十五周年」を機に、同窓生同士のつながりを再構築したいと願っていることが分かりました。

これからの同窓会活動を支えるのは、自分たちが卒業した新潟大学教育学部への誇りと愛着であること、それを多くの同窓生と共有することが大切であることが確認されたとても有意義な会になりました。

来年度は、さらに多くの支部長・学科代表のみなさんから、この会に参加していただくことを期待しています。



（組織部長 古井丸 裕三）

教職大学院生 1年目の実践報告

**防災教育の充実を図る地域連携を取り入れた
防災カリキュラムの策定**
学校経営コース 猪爪 正樹（新潟市立早通小学校）

1 課題設定

いつ起こるか分からない地震をはじめとする災害に対する教育課程内の防災教育は、児童の現在と未来において生きる力を育む大切な機会となる。しかし、研究実施校の防災教育が避難訓練前後の単発な指導で体系化されているとは言えず、非常時に児童が自分の命を守れるのかということに危機感をもち、防災教育のカリキュラムの見直しと策定が必要であると考えた。

2 研究目的

本研究の目的は、研究実施校の防災教育を改善するための防災カリキュラムを策定することである。特に、研究実施校が児童に身に付けさせたい資質・能力の育成のために防災教育の充実を図ることができるよう地域連携を取り入れたカリキュラムを策定する。

3 令和6年度の成果

- 児童に身に付けさせたい資質・能力育成に向けた39個のポイントの自校化。
- 各学年で教科横断的な学びを進めるための単元整理、新潟県防災カリキュラムの位置付け。

- 生活科・総合的な学習の時間への防災のサブ単元設定等の変更を加えたカリキュラムの策定。
- カリキュラム実施のための教職員の学び（カリキュラムマネジメントや防災に関する研修）の機会となる職員研修計画の作成と設定。
- 地域連携を進めるコミュニティ協議会との協議の場（合意形成を図りながらの連携の場）の設定。

4 令和7年度のこれまでの実践

教育課程の軸を防災と設定し、身に付けさせたい資質・能力の育成に向けて全職員で進めている。その取組の1つとして、教職員の知識と対応力向上のための防災研修や教科横断的な視点でのカリキュラムマネジメント研修を実施している。また、地域連携の大きな取組として、児童、保護者、地域住民対象の防災教室をコミュニティ協議会との共催で6月に開催した。

5 今後の方向性

筆者が運営側として教職員や地域を巻き込みながら取組を進める。その際、実践の省察を蓄積するとともに、実践の有効性を児童と教職員、地域住民へのアンケート調査の変容から見取る。それらを踏まえ、次年度以降も持続可能な防災カリキュラムを策定する。

若手教員の育成を通して学校の教育力が高まる 「初任段階教員育成システム」の構築 学校経営コース 山崎 翔泰（阿賀野市立水原小学校）

1 テーマ設定の背景

ベテラン教員大量退職と若手教員急増により、学校の教育力維持と育成機能の低下が課題になっているため、若手と中堅・ベテラン教員が共に学び合い成長できる校内体制の必要性から本研究テーマを設定した。

2 研究の目的

初任段階教員の学習ニーズを把握し、協働的な学びを促進する「初任段階教員育成システム」の基本構想を構築することを目的とする。

3 令和6年度の研究の実際

初任段階教員8名と学年主任7名への調査から、やりがいと課題感の混在、支援のニーズ（授業づくり・学級経営・保護者対応など）、職場環境の雰囲気、校内体制の未整備による育成機能の阻害要因が課題として指摘された。

4 初任段階教員育成システムの基本構想

中教審答申第185号（H27.12.21）の提言と現場の実態をもとに、①チーム体制の構築、②マネジメント

機能の強化、③学びの環境整備の3視点で基本構想を設計した。学校組織として初任段階教員を育成するビジョン「目指す資質・能力」を定めた（図1）

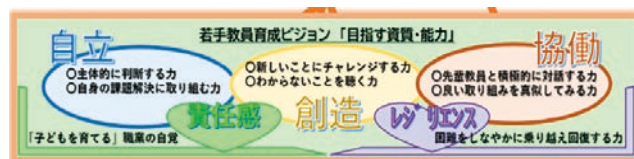


図1 若手教員育成ビジョン「目指す資質・能力」

育成システムを機能させるために、これまで明らかになった要素を踏まえ、システム運営の4本柱を策案した。

【柱①】キャリア形成の支援

【柱②】組織への適応とコミュニティ形成

【柱③】教員意識の醸成（メンタリング等）

【柱④】基礎力・専門性の向上（OJTからOJLへ）

5 2年次における取組

育成システムを教務主任の立場で具現化し、研修の具体化と協働体制の整備を進める。令和7年度は「実装・運用方針の確立」を目指す。

教職大学院生 1年目の実践報告

小規模小学校におけるチーム担任制が課題への集中 に困難のある児童の指導に及ぼす効果 教育実践コース 草野 大樹（長岡市立上通小学校）

はじめに

本研究は、小規模小学校における異学年教科担任制（教科交換と定期的な打ち合わせ）が生徒指導上の課題を抱える児童の行動変容にどのような効果をもたらすかを検証することを目的とした。理論的背景として、教員間の協働と専門性共有による児童理解の深化を目指すチーム担任制の考え方と、特定の行動の生起を制御するための先行事象操作に焦点を当てた応用行動分析学の知見を取り入れた。

研究方法

介入として、A教諭とB教諭間で3年生の音楽と4年生の図工の一部教科担当を交換する異学年教科交換授業を実施した。また、両教諭と研究者（筆者）は、毎週木曜日の放課後に約20分間の定期的な打ち合わせを行った。児童の授業中の様子の評価測定は、行動観察によって行った。対象教科は国語、算数、理科、社会、図工、音楽とした。観察は2つの段階で行い、前半（10月8日～10月17日）は機能的アセスメントのため標的行動を限定せず、後半（10月22日以降、ベースライン期と介入期）は機能的アセスメントの結果に基づき設定した標的行動の出現回数を記録した。

研究結果

実践研究の結果、抽出児である児童Cと児童Dともに、介入期において1授業あたりの標的行動の平均生起数がベースライン期と比較して減少したことが示された。教員へのインタビュー結果からは、チーム担任制と定期的な打ち合わせが様々な効果をもたらすことが示唆された。B教諭は、A教諭が図工を担当することで、児童への専門的な視点からの働きかけが増え、児童の技術的な向上への意欲が高まったと感じている。教員間の定期的な打ち合わせについて、A教諭、B教諭ともに、同じ目線で話せる相手がいることが精神的な負担軽減につながったと述べた。

考察

本研究から、小規模小学校における異学年教科担任制の導入と定期的な打ち合わせの継続は、授業中に課題への集中が困難な児童の標的行動を減少させる上で、一定の効果をもたらす可能性が示唆された。しかし、その効果はすべての教科で一様ではなく、児童Cにおいて算数で明確な減少が見られた一方で、国語ではその傾向が弱かった。また、定期的な打ち合わせを通じて教員の児童理解が進み、働きかけが変化したことも、標的行動の減少に影響を与えたことは否定できない。

令和7年度 専門部活動計画

研修部

部長 坂内 徹

広報部

部長 栗田 貫

組織部

部長 古井丸 裕三

交流部

部長 諸橋 智

一 研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人間的な資質を高めることを目的に本年度事業を以下のように計画しました。多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。

二 事業内容

「第五十回 同窓生の集い」

・期 日 令和七年九月二十日（土）
・会 場 アートホテル新潟駅前
新潟駅南口直結

・講演会 午後三時十五分
～午後四時四十五分

・演 題 「特別支援教育の現在、過去、未来」

・講 師 有川 宏幸 様

新潟大学教育学部副学部長
・懇親会 午後五時～午後七時

申込等詳細は十ページをご覧ください。

一 基本方針

○同窓会の活動や会員の声、大学の状況を積極的に紹介するとともに、会員のニーズに応える紙面づくりを目指すことで、役に立ち、取っておきたくなる広報誌を目指す。

○大学の取組等に焦点を当てて広報活動することで大学と同窓会の連携を推進する。

○年間二回、四色刷りカラー印刷を継続して発行する。

二 活動内容

「教育新報」年間二回発行

○第一八九号（七月二十日発行予定）

巻頭言、令和七年度専門部活動計画

同窓会本部役員・支部長・学科代表一覧、令和六年度決算報告、令和七年度予算、大学コーナー、教職大学院実践報告、花鳥風月等

○第一九〇号（二月二十日発行予定）

巻頭言、花鳥風月、「同窓生の集い」報告、学科や支部の活動紹介、学校紹介、（小・中・特支学校）、会員の広場等

一 基本方針

（一）支部長や学科代表者との連携を図りながら、教育現場を中心に活躍する会員同士のつながりを維持、発展させるとともに、会員としての所属意識を高める。

（二）「教育学部同窓会創立七十五周年記念式典・記念祝賀会」の開催に向けて、「同窓生の集い」などの事業への積極的な参加を促し、気運の醸成を図る。

二 活動内容

（一）「支部長会」の開催 六月

（二）「学科代表者会」の開催 六月

（三）「同窓生の集い」（研修部事業）への参加促進 九月

（四）「教育学部同窓会創立七十五周年記念式典・記念祝賀会」の開催に向けての取組（実行委員会の方針に基づく活動）

三 その他

・より多くの支部や学科で「集い」などの活動が行われるように、組織づくりや運営方法についての情報共有や活動を支援する。

一 基本方針

大学（大学院）と同窓会役員や会員（現役学生）それぞれの交流促進を図る。

二 活動計画

（一）新潟大学教育学部並びに教育実践学研究科教職員との懇談会・懇親会

学部、教育実践学研究科の現状や取組、卒業・修了生の現状、同窓会活動について情報交換をする。

①日時 令和八年一月二十二日（木）

②会場 アートホテル新潟

（二）同窓生の集い

・研修部との共同開催
・組織部は懇親会を担当

三 その他

（一）「教育学部同窓会創立七十五周年記念式典・記念祝賀会」の開催協力

（二）各種教育関係機関や他団体との連携促進

令和7年度 同窓会本部役員

☆印は新役員

役 職	氏 名	支 部	校名など
会 長	臼杵 勇人	新 潟 東	自宅
副会長	小林由希恵	新 潟 西	新通つばさ小学校
	中野 隆一☆	新 発 田	住吉小学校
	梶谷 正夫	長 岡 西	大島小学校
	灰野 仁☆	新潟西蒲	高志中等教育学校
事務局	杉山 和敏	新 潟 西	教育学部同窓会事務局
	長島 裕☆		
専 門 部	研修部	◎坂内 徹	新 潟 東 下山小学校
		○小泉 慎子	新 潟 東 東特別支援学校
		志田江利子	新 潟 南 庄瀬小学校
		長谷川大雅☆	新 潟 北 早通中学校
	広報部	◎栗田 貴	新 潟 東 桃山小学校
		○音田 和行	新潟江南 横越小学校
		小林 肇☆	新 潟 北 太夫浜小学校
		若月 利春	新 潟 西 五十嵐小学校
		高橋 新一	新 潟 北 木崎小学校
		山本 桜平	新 潟 西 小針小学校
	組織部	◎古井丸裕三	新潟西蒲 曾根小学校
		○平田 伸一	新 潟 北 松浜小学校
		樋口 大輔	新潟中央 浜浦小学校
		加藤 雅晃	新 潟 北 松浜小学校

役 職	氏 名	支 部	校名など
専 門 部	交 流 部	◎諸橋 智	新潟中央 日和山小学校
		○藤塚 静治	新潟中央 新潟市教育相談センター
		永井 高志	新潟中央 新潟市こども創造センター
		古川 智子	新潟中央 女池小学校
		藤田 凌	長 岡 西 青葉台小学校
	監 事	石塚 智久	新潟中央 新潟市教育委員会総務課
		川又 由香	新 潟 北 岡方第一小学校
		牧野淡紅恵	新 潟 東 下山中学校
	顧 問	中川 幸次	県 外 自宅
		大関 雄策	新潟中央 自宅
		磯辺 浩昭	新 発 田 自宅
		藤井 保男	新 潟 東 自宅
		斎藤寿一郎	新 潟 東 自宅
		佐藤 重勝	新潟秋葉 自宅
		安達 徹	新潟秋葉 自宅
新潟大学全学同窓会	理 事	臼杵 勇人	新 潟 東 自宅
	運営委員	山下あい子	新潟西蒲 自宅
		笛木 晶子☆	新潟西蒲 自宅
		松井 裕美	新 潟 南 南区教育相談室
		岡村 浩	大 学 新潟大学経済科学部

令和7年度 同窓会学科代表 ☆印は新代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国 語	三村 孝志	自宅
2	地 理	篠木 格	上所小学校
3	歴 史 研 究 室	佐藤 昌寿☆	葛塚東小学校
4	経 済	小庄司一泰	新潟市教育委員会学校支援課
5	哲 学	清野 真輝	新津第二小学校
6	社 会	土田 宏美	日吉小学校
7	算 数・数 学	小泉 浩彰	上山中学校
8	物 理	茂呂 良彦	自宅
9	化 学	羽鳥 益実	下川西小学校
10	生 物	八百板恵理子	潟東小学校
11	地 学	横山 雅史	神林中学校
12	英 語	梶本 敏郎	高田高等学校
13	音 楽	桜井 直美☆	新潟市総合教育センター
14	美 術	永井 高志	新潟市こども創造センター
15	保 健 体 育	栗田 貴	桃山小学校
16	家庭〔萌木会〕	太田 優子☆	新潟県立大学
17	職 業 指 導	松村 明彦	自宅
18	教 育	山岸 真夫	自宅
19	教 育 心 理	岡田 義則	東特別支援学校
20	技 術	倉島 陽介	光晴中学校
21	特 別 支 援 教 育	参宮 美樹	附属特別支援学校
22	養 教 特 別 別 科	柴野 理恵☆	自宅
23	幼 児 教 育	近藤 和徳	新潟市教育委員会教育総務課
24	学社ネットワーク	小柳加奈子	自宅
25	生 活 科 学	遠山麻依子	光晴中学校
26	生 活 シ ス テ ム	大森 山	春日中学校
27	健 康 ス ポ ー ツ	大口 良平	新井小学校
28	書 道	岡村 浩	新潟大学経済科学部

令和7年度 同窓会支部長 ☆印は新支部長

地 域		支 部	支部長	校名など
上 越	1	上 越	鹿目 功二	ひすいの里総合学校
	2	長 岡 東	平野 秀穂☆	中越教育事務所
	3	長 岡 西	相澤 勇弥☆	青葉台小学校
	4	三 条	佐藤 貴紀	大浦小学校
	5	柏 崎・刈 羽	加藤美奈子☆	日吉小学校
	6	小 千 谷	高橋 豊	総合支援学校
	7	加 茂	荒井 純☆	須田小学校
	8	十日町・津 南	南雲 恵子	南中学校
	9	見 附	川上 節夫☆	見附小学校
	10	燕	坂内 克明	燕西小学校
	11	魚 沼	吉田 卓司☆	須原小学校
	12	南 魚 沼	桑原 洋文	城内小学校
	13	弥 彦	*	*
	14	田 上	杉山 一郎☆	田上小学校
	15	湯 沢	阿部 隼英	湯沢中学校
	16	出 雲 崎	*	*
中 越	17	新 潟 北	竹島 克也☆	木崎小学校
	18	新 潟 東	松島慎一郎☆	中野山小学校
	19	新 潟 中 央	風間 弘子	紫竹山小学校
	20	新 潟 江 南	金 洋輔☆	東曽野木小学校
	21	新 潟 秋 葉	飯田 厚☆	荻川小学校
	22	新 潟 南	齋藤 潤次☆	根岸小学校
	23	新 潟 西	林 なおみ	黒崎南小学校
	24	新 潟 西 蒲	村上 大樹☆	中之口西小学校
	25	新 発 田	関川 紀博	七葉小学校
	26	村 上	仙田 満☆	村上小学校
	27	五 泉	若狭 陽一	五泉南小学校
	28	阿 賀 野	石塚 晃一☆	安田中学校
	29	胎 内	山沢 正仁	胎内小学校
	30	聖 籠	臼井 政之☆	山倉小学校
	31	阿 賀	国本 力	阿賀津川中学校
	32	関 川	金子 浩	関川中学校
	33	粟 島 浦	近 和真☆	粟島浦小学校
佐 渡	34	佐 渡	福井 晴人☆	畑野中学校

令和6年度 一般会計決算報告

1 収入の部

項 目	R 6 年度収入額	R 6 年度予算額	比 較	摘 要
1 繰 入 金	7,150,000	7,000,000	150,000	総合会計から繰入れ（前年度残金から）
2 雑 収 入	156,553	0	156,553	利息 懇親会費徴収分等
合 計	7,306,553	7,000,000	306,553	

2 支出の部

(▲は残額)

項 目	R 6 年度執行額	R 6 年度予算額	残 額	摘 要
1 会 議 費	33,993	40,000	▲ 6,007	会計監査・第1・2回本部会・評議会経費等
2 旅 費	122,710	120,000	2,710	会計監査、本部会、評議会、特設委（項目の部開催の旅費は各部での執行とする）
3 助 成 費	189,190	200,000	▲ 10,810	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事 務 局 費	1,821,003	1,400,000	421,003	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、機器更新、通信費等、パンフNo. 14
5 研 修 費	316,635	380,000	▲ 63,365	同窓生の集い企画運営費・旅費
6 広 報 費	541,800	600,000	▲ 58,200	機関紙発行2回、執筆謝礼
7 組 織 費	20,000	20,000	0	組織部会経費
8 交 流 費	341,385	300,000	41,385	交流会企画運営費・旅費、カミングホームデイ企画運営費・旅費等
9 大学・学生支援費	620,275	630,000	▲ 9,725	研究会助成、学生支援、附属校研究発表会祝儀 卒業祝賀会助成
10 奨 学 金	750,000	750,000	0	大学院教育実践学研究科現職院生奨学金（5 × 150000）
11 全 学 同 窓 会 費	533,510	510,000	23,510	全学同窓会員担金、全学役員旅費、全学交流会懇親会補助
12 人 件 費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬2名
13 その他予備費	110,000	250,000	▲ 140,000	全学教職支援センター助成金、新潟教育会助成金、新大祭、特設委員会旅費等
合 計	7,200,501	7,000,000	200,501	

3 残高の部 7,306,553 − 7,200,501 = 106,052 円 *残金は年度末総合口座に繰り入れます。

令和6年度 総合会計決算報告

1 収入の部

(▲は予算に対して減)

項 目	R 6 年度収入額	R 6 年度予算額	比 較	摘 要
1 繰 越 金	28,677,662	28,678,542	▲ 880	前年度繰越金（第四北越総合口座前年度末残金）
2 学 校 会 員 会 費	1,502,971	1,700,000	▲ 197,029	会費 - 振込手数料 - 振込料（880）
3 個 人 会 員 会 費	81,081	100,000	▲ 18,919	会費 - 振込手数料
4 永 年 会 員 会 費	4,170,612	4,000,000	170,612	会費 - 振込手数料（880） - 印字手数料（1720）
5 一 般 会 計 繰 入 金	106,052	0	106,052	一般会計への繰出金に残金があるので、総合口座に戻した額
6 雑 収 入 ①	1,889	0	1,889	一般口座利息
7 雑 収 入 ②	11,365	0	11,365	一般口座利息
8 雑 収 入 ③	85	0	85	銀行定期利息など
合 計	34,551,717	34,478,542	73,175	

2 支出の部

項 目	R 6 年度執行額	R 6 年度予算額	比 較	摘 要
1 一 般 会 計 繰 出 金	7,150,000	7,000,000	150,000	令和7年度当座金として、一般会計口座へ
合 計	7,150,000	7,000,000	150,000	

3 残高の部 34,551,717 − 7,150,000 = 27,401,717 円 *残金は、令和7年度第四北越総合会計に繰り越します。

大学教官の異動

(昨年度の七月以降)

◎学部を去られた先生	教授 辻 照彦(英語科) 令和七年三月三十一日 定年退職	教授 飯野由香利(家庭科) 令和七年三月三十一日 定年退職	教授 藤林 紀枝(理科) 令和七年三月三十一日 定年退職	教授 松井 賢二(教育心理学) 令和七年三月三十一日 定年退職	教授 張間 忠人(数学科) 令和七年三月三十一日 退職	准教授 岡村 仁一(英語科) 令和七年三月三十一日 退職	准教授 塩原 佳典(学校教育学) 令和七年三月三十一日 定年退職	准教授 村川 孝子(教職指導) 令和七年三月三十一日 任期満了退職	教授 高橋 恒彦(教職大学院) 令和七年三月三十一日 任期満了退職	教授 高木 幸子(教職大学院) 令和七年三月三十一日 定年退職	教授 佐藤 大介(教職大学院) 令和七年三月三十一日 任期満了退職	准教授 酒井 悟(教職大学院) 令和七年三月三十一日 任期満了退職	准教授 田代 孝(教職大学院) 令和七年三月三十一日 任期満了退職	◎新しくおいでになった先生	講師 伊東 良純(数学科) 令和七年四月一日 採用	准教授 龍井 美緒(教育心理学) 令和七年四月一日 採用	講師 山本 詩織(教職大学院) 令和七年四月一日 採用	准教授 高見 潤(教職大学院) 令和七年四月一日 採用	准教授 富田 一志(教職大学院) 令和七年四月一日 採用	准教授 八藤後和男(教職大学院) 令和七年四月一日 採用	特任教授 吉田 隆(教職大学院) 令和七年四月一日 採用	◎昇任された先生	教授 山口 智子(家庭科) 令和七年一月一日 昇任	教授 田中 恒彦(教育心理学) 令和七年四月一日 昇任	教授 阿部 好貴(教職大学院) 令和七年六月一日 昇任	(敬称略)
------------	------------------------------	-------------------------------	------------------------------	---------------------------------	-----------------------------	------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	---------------	---------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	----------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-------

令和7年度 一般会計予算

(▲は、前年度比較減)

1 収入の部

項 目	R 7 年度予算額	R 6 年度予算額	増 減	摘 要
1 繰 入 金	7,000,000	7,000,000	0	総合会計から繰入れ
2 雑 収 入	0	0	0	
合 計	7,000,000	7,000,000	0	

2 支出の部

項 目	R 7 年度予算額	R 6 年度予算額	増 減	摘 要
1 会 議 費	40,000	40,000	0	本部会、評議会、会計監査会等の会場費、お茶代
2 旅 費	120,000	120,000	0	本部会、評議会、監査会旅費
3 助 成 費	200,000	200,000	0	学科助成、支部助成、同期の会助成、学科の集い助成
4 事 務 局 費	1,600,000	1,400,000	200,000	郵送料、電話・光熱費、印刷代、消耗品等
5 研 修 費	380,000	380,000	0	集い企画運営費等（会場費、講師謝礼、参加助成等）
6 広 報 費	600,000	600,000	0	機関紙「教育新報」発行代、同窓会パンフ作成代
7 組 織 費	20,000	20,000	0	運営諸経費
8 交 流 費	200,000	300,000	▲ 100,000	交流会企画運営費
9 大学・学生支援費	630,000	630,000	0	卒業論文発表会助成、卒業制作発表会助成、卒業祝賀会助成等
10 奨 学 金	750,000	750,000	0	奨学生5名
11 全 学 同 窓 会 費	530,000	510,000	20,000	負担金、全学理事会・運営委員会旅費等
12 人 件 費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬2名
13 その他予備費	130,000	250,000	▲ 120,000	全学教職支援センター助成、新潟教育会館助成等
合 計	7,000,000	7,000,000	0	

令和7年度 総合会計予算

(▲は、前年度比較減)

1 収入の部

項 目	R 7 年度予算額	R 6 年度予算額	増 減	摘 要
1 繰 越 金	27,401,717	28,678,542	▲ 1,276,825	前年度繰越金（第四北越銀行総合口座前年度末残金）
2 学 校 会 員 会 費	1,500,000	1,700,000	▲ 200,000	会費 - 振込手数料
3 個 人 会 員 会 費	80,000	100,000	▲ 20,000	会費 - 振込手数料
4 永 年 会 員 会 費	3,700,000	4,000,000	▲ 300,000	会費 - 振込手数料
5 繰 入 金	0	0	0	*一般会計への繰出金に残金が出た場合、年度末に繰入
6 雑 収 入	0	0	0	銀行利息など
合 計	32,681,717	34,478,542	▲ 1,796,825	

2 支出の部

項 目	R 7 年度予算額	R 6 年度予算額	増 減	摘 要
1 一 般 会 計 繰 出 金	7,000,000	7,000,000	0	
合 計	7,000,000	7,000,000	0	

事務局だより

□「評議会」の報告

令和七年度の「評議会」を六月十四日（土）に開催いたしました。今回は、より多くの評議員の方々からご参加いただけるようにズーム配信を取り入れました。また、事前に資料を配付することもでき、充実した会を開催することができました。これも現地での参加及びズームで参加くださった支部長・学科代表の皆さんのおかげと感謝申し上げます。

議事につきましては、全県から集まられた支部長・学科代表（評議員）の皆さんの話し合いを通して、すべての議案が承認されました。大変ありがとうございました。

また、そのあとの「支部長・学科代表者会」におきましても、令和九年度の「教育学部同窓会創立75周年」を契機に同窓会がさらなる発展を遂げるためには、各支部や学科の存在が重要になるとの認識で意見を交流し合いました。話し合いを聞いていて頼もしく感じました。本部役員と支部長・学科代表がスクラムを組んで、今年から取り組んでいきたいと思っています。令和九年度の創立75周年では、また新しい同窓会の姿が見られるよう楽しみにしております。どうか皆さんで声を掛け合って同窓会を盛り上げていきましょう。

大学の
コーナー

新潟大学全学教職センターの取り組み

新潟大学教育基盤機構 全学教職センター

客員教授 熊倉 達也

新潟大学全学教職センターは、平成二十一年十月一日に設置されました。以来、学生が教職課程を履修して教員免許状を取得することと共に、教員として就職し活躍することを支援するための活動を行っています。

現在、二つの部門があります。

「教職課程支援部門」

教員を目指す全学部 of 学生が対象です。教職科目の開設、教育実習や介護等体験の計画と運営管理、教育職員免許状取得に関する相談及び助言、さらに教員採用に向けた活動への支援を行っています。

「学校教員研修支援部門」

小学校・中学校・高等学校等の教員が対象です。理論と実践を統合させた研修や認定講習を行い、教員としての資質能力の開発や実践的指導力の養成に貢献しています。設立当初は「免許状更新講習」の実施が大きな柱でしたが、制度が終了した現在は、現職教員の新たな研修制度に資するコンテンツの提供を充実させているところです。

ここからは、教員を目指して採用試験を受検しようとしている学生に対する支援について紹介します。担当しているのは、新潟県内で校長を経験した

三名の客員教員・特任教員です。

①「教職理解特別講座」

教員として必要な「教育観」の構築と意欲の醸成、採用試験の概要理解と出願準備、学習指導や生徒指導の理解、筆記検査及び面接検査の具体的な対応等について指導します。

前期は主に四年生を対象に「応用コース」として十回【別表参照】、後期は翌年の受検予定者を対象に「基礎コース」として十一回程度開講しています。

採用試験に臨む際、最も大切なのは学生自身の中に「ぶれない軸」ができていることです。なぜ教員を目指すのか、教職のどこに魅力を感じているのか、教師になったら何を実践したいのか。講義とともに実践的な演習を重視し、自分の考えを表現する「アウトプット」の練習もふんだんに行っています。

②「教職相談」

もう一つの柱が個別の教職相談です。一コマ一時間の中で、個別の相談や指導を行っています。

・進路相談：教職や採用に関する情報、各自の進路に関するアドバイスを面接指導：採用試験に向けた個人面接、集団面接、模擬授業等の指導

・小論文：論述問題の添削指導
・書類作成：採用試験の出願書類（自己申告シート等）、指導案等の支援
これらの支援を学生一人一人に合わせて、きめ細かく行っています。

【令和七年度 教職理解特別講座・応用コース】

開催日	講義内容
第1回 4月10日(木) 会場：教育学部 B206	オリエンテーション ・教員採用選考検査の情報と準備 ・教育職の場域 ・出願書類の書き方
第2回 4月17日(木) 会場：教育学部 B206 ほか	教員採用選考検査についての説明・相談会 ・新潟県教育委員会、新潟市教育委員会 等より
第3回 4月24日(木) 会場：教育学部 B206	筆記検査対策 ・教職、一般教養 ・教科専門 ・論作文等
第4回 5月 8日(木) 会場：教育学部 B206	面接対策① ・学習指導について
第5回 5月22日(木) 会場：教育学部 B206	面接対策② ・生徒指導について
第6回 5月29日(木) 会場：教育学部 B206	面接対策③ ・人物検査について
第7回 7月10日(木) 会場：教育学部 B206 ほか	実践二一三別演習Ⅰ A 個人面接 B 集団面接 C 場面指導
第8回 7月17日(木) 会場：教育学部 B206 ほか	実践二一三別演習Ⅱ A 個人面接 B 集団面接 C 場面指導
第9回 7月24日(木) 会場：教育学部 B206 ほか	実践二一三別演習Ⅲ A 個人面接 B 集団面接 C 場面指導
第10回 11月13日(木) 会場：未定	教壇に立つ心構え ・新人・ベテラン教師からのメッセージ

さて、当センターは全学部 of 学生が対象ではありませんが、利用者の八割以上は教育学部および養護教諭特別科の学生です。必然的に教育学部と連携を取る必要があります。

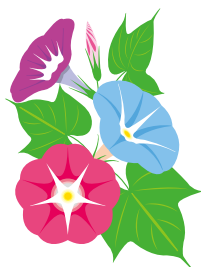
例えば、「教育委員会による採用選

考検査説明・相談会」に関しては、当センターと教育学部との「共催」の形を取っています。教育学部生はもとより、理学部や文学部などの学生も多数参加しています。令和七年度は、新潟県・新潟市教育委員会に加えて、群馬県、川崎市、富山県、石川県の教育委員会からも参加してもらいました。

また、とりわけ教育学部の教職指導担当者とは、対象学生が重なることから緊密に連携して業務を進めています。

教員のなり手不足が叫ばれる中、採用試験の早期化・複線化が進んでいます。三年生も受検できるようになり、学生の意識も確実に高まっています。このような時だからこそ、学生には学校現場で行われている教育活動の実際や児童生徒の実態をしっかりと理解するとともに、教職に対する自分なりの確かな考えを持って欲しいと思っています。そして、教員という仕事に情熱と希望を抱いて教育現場に飛び込み、活躍してくれることを願っています。

将来の優秀な教員の養成、そして学生一人一人の進路実現のために、当センターでは「的確」かつ「熱」の入った支援を進めているところです。



第50回 同窓生の集い

講演会

【演題】

特別支援教育の 現在、過去、未来

日時

令和7年 9月20日(土)
15:00より
(14:30受付開始)

講師

新潟大学教育学部 副学部長

新潟大学教育基盤機構 全学教職センター長

有川 宏幸 氏



千葉県生まれ。公認心理師、臨床発達心理士。筑波大学大学院修了後1995年4月より発達相談員として大阪府岸和田市保育課、同保健センター勤務。乳幼児健診等における障害のある乳幼児の発見とその後の保護者対応、心理面のフォロー、療育・保育等における特性に応じた関わり等の相談など幅広い業務に携わる。2006年10月より現職。

著書『教師のための保護者と創る学校「交渉術」読本』(学苑社)、『教室の中の自閉スペクトラム症』(明治図書)、『教室の中の応用行動分析学』(明治図書)、『発達が気になる乳・幼児のこころ育て、ことば育て』(ジ・アース教育新社)、『障害児保育』(分担執筆、建帛社)、DVD『DVDで学ぶ応用行動分析学入門』(監修、中島映像教材出版)など
貴重な講演の機会です。皆様のお越しをお待ちしております。

場所

アートホテル新潟

〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1-1
TEL. 025-240-2111

申し込み＆問い合わせ先

新潟大学同窓会事務局

TEL&FAX 025-263-6760

MAIL dousou@ed.niigata-u.ac.jp

※火曜から金曜までの12:45から16:45の間にお問い合わせいたします。

日程

受付 14:30～

開会式

15:00～15:15

講演会

15:15～16:45

懇親会

17:00～19:00

入場料

無料

懇親会

新潟大学教育学部の卒業生の方は、是非懇親会にもご参加ください。

参加を希望される方は8月29日までにご

連絡ください。参加費は7,000円です。

(同窓生には一部補助をします。)

主催

新潟大学教育学部
同窓会

後援

新潟市教育委員会
(申請中)